

## 鹿児島県トカラ列島小宝島の植物採集記録

森 田 康 夫\*

The report of the plant collection on Kodakara-jima in the Tokara Islands, Kagoshima Prefecture  
Yasuo MORITA

### はじめに

鹿児島県立博物館では、県内の自然に関する調査及び自然資料の収集を計画的に実施しているが、特に、トカラ列島の自然調査については1988年より継続的に行い、世界的に注目されている生物相の分布や変遷の把握、並びに自然資料の収集に力を入れている。植物分野においても、その間ほぼ毎年トカラ列島の各島を訪問して、植物相や植生の調査及び資料の収集にあたり、多くの知見を蓄積しつつある。2005年度は、トカラ列島の南部に位置する小宝島を調査・収集の対象とし、11月29日の午後半日植物資料の収集を行ったので、その結果と収集資料に基づいた若干の知見を報告する。

小宝島の植物相については、初島（1975）、平田（1995）、志内（1996）等の報告があり、このうち小宝島に生育する高等植物を初島は177種とし、平田は274種としている。これらの値は、島が小さいこともあってトカラ列島の他の島と比べると少なく、小宝島の植物相が比較的単純であることを示している。（表1参照）

当館における小宝島での調査・収集の記録は、1994年12月に当時の館職員である寺田仁志が訪問して詳しい植生調査と資料の収集を行った。寺田は、シダ植物2種と種子植物18種の合計20種を採集して収蔵資料とし、さらに新分布種として26科44種を記録している。その後、筆者は2000年の6月に1時間ほど上陸する機会があって、シダ植物1種と種子植物19種の計20種を採集して標本化した。

今回の収集では、シダ植物3種、種子植物70種の合計73種を採集し、前回と合わせた収集資料数は、シダ植物4種と種子植物82種の合計86種とな

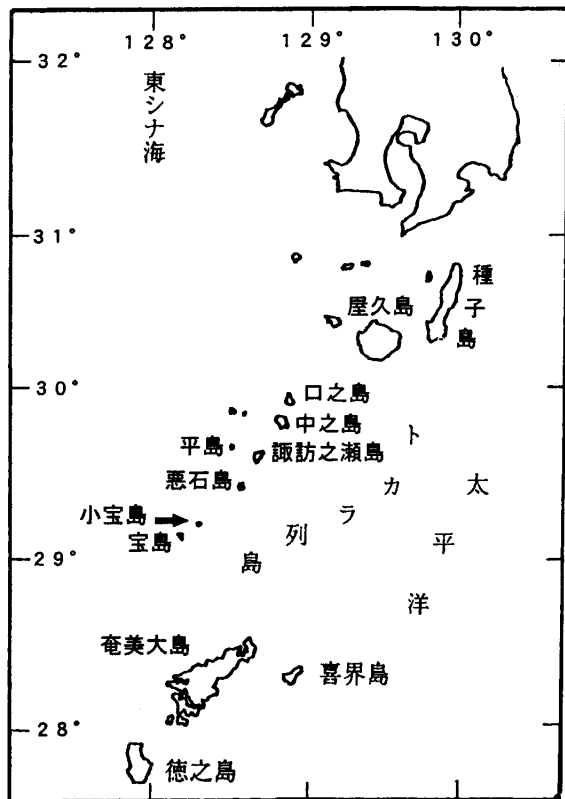


図1 小宝島位置図

\* 〒892-0853：鹿児島市城山町1-1 鹿児島県立博物館

り、すべて標本化して収蔵した。これらのうち76種はこれまで収蔵していない種であり、小宝島における当館の収蔵植物標本は合わせて104種となった。

なお、資料の同定にあたっては、当館元学芸指導員の丸野勝敏氏と植物ボランティアの篠崎チサ氏にお世話になった。また、十島村教育委員会には採集の便宜を図っていただき、現地では、島在住の岩下秀行氏に島内を案内していただいた。この場を借りて厚く感謝申し上げる。

## 1 小宝島の概況

小宝島は、宝島の北東約15kmにあり、ほぼ台形状をした面積約1.16km<sup>2</sup>の小さな島である。島の最高点は中央部にある標高103mの竹の山で、頂上部がやや傾斜したテーブル状をしている。周囲は二段の隆起サンゴ礁に取り囲まれており、上位の段丘は高度7~10mで最大幅250m、下位の段丘は高度1.3~2.4mで最大幅150mほどある。気象に関する島のデータはないが、亜熱帯性の温暖な気候で、年平均気温は20℃を超え、年間降水量は2,000~2,500mmと予想される。島の人口は50人不足らずで、小規模な牧畜業や花卉園芸、漁業等が営まれている。

## 2 資料収集域の概要と植生

以下に、今回の調査で植物資料を収集した島内の概要と植生について述べる。(図2参照)

### (1) 海岸の隆起サンゴ礁上岩隙地

島の北西海岸(通称:横瀬海岸)一帯の波打ち際近くの隆起サンゴ礁上には、イソマツやイソフサギが生える単純な群落が見られる。ただし、イソマツの出現頻度は低く、現地の岩下氏によると、昨年(2004年)の台風で長時間水没したために壊滅的な打撃を受けたとのことである。

また、島の東部のサンゴ礁上には、テンノウメやオキナワハイネズが優占する岩上群落が見られる。こちらは標高がやや高いこともあって、ボタンボウフウやツルモウリンカを含む多様度の高い植生が観察できる。

### (2) 集落及び北部耕作地周辺

集落は島の東部にかたまっており、その周辺にはガジュマルやヤブニッケイ、トベラ等の

表1 トカラ列島、各島の植物種数

島名	初島 1975年	平田 1995年
口之島	418種	482種
中之島	581種	692種
平島	165種	352種
諏訪之瀬島	211種	388種
悪石島	367種	453種
小宝島	177種	274種
宝島	389種	557種

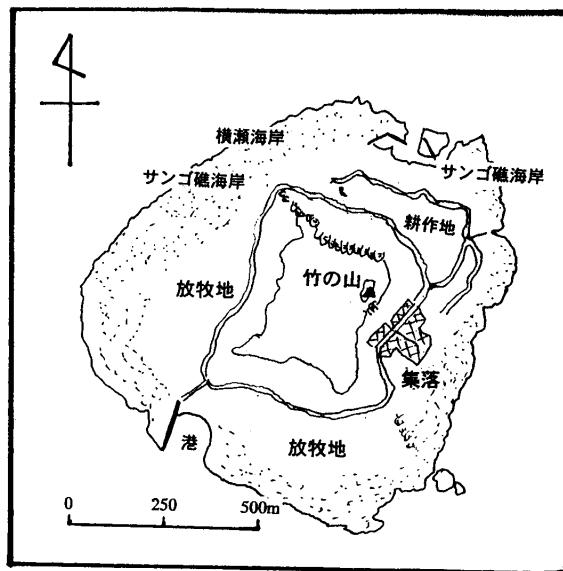


図2 小宝島の植物採集域

樹木から成る熱帯性の海岸林も見られる。特に海岸近くにはアダンの大きな群落もあり、クサトベラやモンパノキも混生する。また、林縁にはハマサルトリイバラなどのつる植物も多い。耕作地のそばでは、ホシアサガオの新たな帰化も認められた。

### (3) 島の南部から西部の放牧地と路傍

島の南部と西部の海岸沿いには、鉄条網で囲まれた牛の放牧地が存在する。放牧地内はほとんど植生は見られないが、周辺の草地や路傍はハチジョウススキやホソバワダン、オオシマノジギク等からなる草地となり、新たにセイヨウタンポポやナピアグラス等の帰化植物も混生していた。

### (4) その他

島の南東部の集落から放牧地に至る隆起サンゴ礁上で南限種のハマナデシコを採集した。時期的に花茎はなく根出葉だけであったが、個体数は少なくなっていると思われる。また、以前学校の花壇で植栽していたテンニンギクが逸出し、島全体の路傍や海岸近くで繁茂している。

なお、中央部にある標高103mの「竹の山」は名の示すとおり全山がリュウキュウチクにおおわれ、山頂へ至る道も竹でおおわれて登山ができず、採集はできなかった。

## 3 採集した植物について

表2は、2000年6月と今回(2005年11月)の調査で採集した植物種の一覧表である。合計42科86種の高等植物を採集し、すべて標本化して当館に収蔵した。初記録種や分布上注目すべき種など、若干の知見を得たので以下に述べる。

### (1) 初記録種について (表2の備考欄には、「初記録」と記載)

#### ① ホシアサガオ *Ipomoea triloba* ヒルガオ科

南アメリカ原産の一年草で、南北アメリカやオーストラリア、東南アジアに広く帰化している。日本では戦後帰化が確認され、関東以西の暖地の路傍や畑地に時折見られる。小宝島では、島の北西部の畑地の脇や路傍で生えている個体を採集した。

#### ② セイヨウタンポポ *Taraxacum officinale* キク科

ヨーロッパ原産で世界中に帰化している多年草で、日本でも明治時代初期に北海道に渡ってきたとされ、全国に広く分布するようになった。トカラ列島での帰化は遅く平島が最初で、その後悪石島で確認され、今回3島目の帰化確認である。小宝島西部の放牧地付近に多く自生している。

#### ③ アオチカラシバ *Pennisetum alopecuroides* f. *viridescens* イネ科

全国の路傍や草地に普通に分布するチカラシバの花穂が淡緑色になる1品種である。奄美や琉球に多く、小宝島でもチカラシバとしてまとめられてきたものと考えられる。島内の海岸近くの路傍や放牧地周辺に多い。

#### ④ ナピアグラス(ネピアグラス) *Pennisetum purpureum* イネ科

熱帯アフリカ原産の一年草で飼料作物として栽培され、世界中に帰化している。日本で

表2 小宝島の収集植物資料一覧

## シダ植物 Pteridophyta

科名	和名	学名	採集年月	備考
コバノイシカグマ科	イシカグマ	<i>Microlepia strigosa</i>	2005年11月	
ホウライシダ科	ホウライシダ	<i>Adiantum capillus</i>	2005年11月	
オシダ科	オニヤブソテツ	<i>Cyrtomium falcatum</i>	2005年11月	
ヒメシダ科	ホシダ	<i>Thelypteris acuminata</i>	2000年6月	

[ 計 4科 4種 ]

## 種子植物 Spermatophyta

## 裸子植物 Gymnospermae

科名	和名	学名	採集年月	備考
ヒノキ科	オキナワハイネズ	<i>Juniperus taxifolia</i> <i>var. lutchuensis</i>	2000,6・2005,11	南方系

[ 計 1科 1種 ]

## 被子植物 Angiospermae 双子葉類 Dicotyledoneae

科名	和名	学名	採集年月	備考
クワ科	ガジュマル	<i>Ficus microcarpa</i>	2005年11月	
	オオイタビ	<i>Ficus pumila</i>	2005年11月	
イラクサ科	カラムシ	<i>Boehmeria nipononivea</i>	2005年11月	
タデ科	ツルソバ	<i>Persicaria chinensis</i>	2005年11月	
	イヌタデ	<i>Persicaria longiseta</i>	2005年11月	
ヒユ科	イソフサギ	<i>Phloxerus wrightii</i>	2005年11月	南方系
ザクロソウ科	ツルナ	<i>Tetragonia tetragonoides</i>	2005年11月	
スベリヒユ科	スベリヒユ	<i>Portulaca oleracea</i>	2005年11月	
ナデシコ科	ハマナデシコ	<i>Dianthus japonicus</i>	2005年11月	南限
ツヅラフジ科	ハスノハカズラ	<i>Stephania japonica</i>	2005年11月	
クスノキ科	スナズル	<i>Cassythia filiformis</i>	2005年11月	南方系
	マルバニッケイ	<i>Cinnamomum daphnoides</i>	2005年11月	
	ヤブニッケイ	<i>Cinnamomum japonicum</i>	2005年11月	
トベラ科	トベラ	<i>Pittosporum tobira</i>	2005年11月	
バラ科	テンノウメ	<i>Osteomeles anthyllidifolia</i> <i>var. subrotunda</i>	2005年11月	北限
	リュウキュウバライチゴ	<i>Rubus croceacanthus</i> <i>var. maximowiczii</i>	2005年11月	
マメ科	ハマナタマメ	<i>Canavalia lineata</i>	2005年11月	
	メドハギ	<i>Lespedeza juncea</i>	2005年11月	
	ハマアズキ	<i>Vigna marina</i>	2005年11月	
カタバミ科	カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>	2000年6月	
トウダイグサ科	ハイニシキソウ	<i>Euphorbia chamaesyce</i>	2005年11月	
ニシキギ科	マサキ	<i>Euonymus japonicus</i>	2000年6月	
ブドウ科	テリハノブドウ	<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> <i>var. glabrifolia</i>	2000年6月	
	エビヅル	<i>Vitis thunbergii</i>	2000年6月	

科名	和名	学名	採集年月	備考
アオイ科	ハイキンゴジカ	<i>Sida rhombifolia</i> ssp. <i>insularis</i>	2000年6月	
	オオバボンテンカ	<i>Urena lobata</i>	2005年11月	
スミレ科	リュウキュウコスミレ	<i>Viola pseudo-japonica</i>	2005年11月	
グミ科	マルバグミ	<i>Elaeagnus macrophylla</i>	2005年11月	
アカバナ科	キダチキンバイ	<i>Ludwigia octovalvis</i>	2005年11月	
	コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i>	2005年11月	
ウコギ科	メダラ	<i>Aralia elata</i> f. <i>canescens</i>	2005年11月	
	キツタ	<i>Hedera rhombea</i>	2005年11月	
セリ科	ボタンボウフウ	<i>Peucedanum japonicum</i>	2005年11月	
	ヤブジラミ	<i>Torilis japonica</i>	2000年6月	
ヤブコウジ科	モクタチバナ	<i>Ardisia sieboldii</i>	2000,6・2005,11	
イソマツ科	イソマツ	<i>Limonium wrightii</i>	2005年11月	南方系
ガガイモ科	サクララン	<i>Hoya carnosa</i>	2005年11月	
	ツルモウリンカ	<i>Tylophora tanakae</i>	2005年11月	
ヒルガオ科	ノアサガオ	<i>Ipomoea indica</i>	2005年11月	
	ホシアサガオ	<i>Ipomoea triloba</i>	2005年11月	初記録
ムラサキ科	モンパノキ	<i>Argusia argentea</i>	2005年11月	北限
アカネ科	ソナレムグラ	<i>Hedyotis biflora</i> var. <i>parvifolia</i>	2005年11月	
	ヘクソカズラ	<i>Paederia scandens</i>	2000年6月	
クサトベラ科	クサトベラ	<i>Scaevola sericea</i>	2005年11月	南方系
キク科	ヨモギ	<i>Artemisia princeps</i>	2005年11月	
	シロバナセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>radiata</i>	2005年11月	
	オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i>	2000,6・2005,11	
	ホソバワダン	<i>Crepidiastrum lanceolatum</i>	2005年11月	
	オオシマノジギク	<i>Dendranthema crassum</i>	2005年11月	北限
	サツマノギク	<i>Dendranthema ornatum</i>	2000年6月	準南限
	タカサプロウ	<i>Eclipta prostrata</i>	2005年11月	
	ウスベニニガナ	<i>Emilia sonchifolia</i>	2005年11月	
	ヤマヒヨドリ	<i>Eupatorium variabile</i>	2005年11月	
	ツワブキ	<i>Farfugium japonicum</i>	2005年11月	
	テンニンギク	<i>Gaillardia pulchella</i>	2005年11月	栽培逸出
	アキノノゲシ	<i>Lactuca indica</i>	2005年11月	
	ツクシメナモミ	<i>Siegesbeckia orientalis</i>	2005年11月	
	ハルノノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>	2000年6月	
	ヒメジョオン	<i>Stenactis annuus</i>	2000年6月	
	セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>	2005年11月	初記録
	キダチハマグルマ	<i>Wedelia biflora</i>	2000,6・2005,11	
	オニタビラコ	<i>Youngia japonica</i>	2005年11月	

[ 計 30科 62種 ]

科名	和名	学名	採集年月	備考
タコノキ科	アダン	<i>Pandanus odoratissimus</i>	2005年11月	南方系
イネ科	アフリカヒゲシバ	<i>Chloris gayana</i>	2005年11月	
	チガヤ	<i>Imperata cylindrica</i>	2005年11月	
	ハナカモノハシ	<i>Ischaemum aureum</i>	2000年6月	北限
	ハチジョウススキ	<i>Miscanthus condensatus</i>	2005年11月	
	アオチカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i> f. <i>viridescens</i>	2005年11月	初記録
	ナピアグラス	<i>Pennisetum purpureum</i>	2005年11月	初記録
	エノコログサ	<i>Setaria viridis</i>	2000,6・2005,11	
	ハマエノコロ	<i>Setaria viridis</i> var. <i>pachystachys</i>	2005年11月	
	セイバンモロコシ	<i>Sorghum halepense</i>	2005年11月	
	ネズミノオ	<i>Sporobolus fertilis</i>	2005年11月	
カヤツリグサ科	ヒゲスゲ	<i>Carex oahuensis</i>	2005年11月	
	シチトウ(リュウキュウイ)	<i>Cyperus monophyllus</i>	2005年11月	初記録
	ハマスゲ	<i>Cyperus rotundus</i>	2005年11月	
サトイモ科	クワズイモ	<i>Alocasia odora</i>	2005年11月	
ツユクサ科	ホウライツユクサ	<i>Commelina auriculata</i>	2000年6月	
ユリ科	クサスギカズラ	<i>Asparagus cochinchinensis</i>	2000年6月	
	ハマサルトリイバラ	<i>Smilax sebeana</i>	2000,6・2005,11	
ショウガ科	アオノクマタケラン	<i>Alpinia intermedia</i>	2005年11月	

註：学名は平凡社刊「日本の野生植物」に従った。

[ 計 7科 19種 ]

総計 42科 86種

は近年南西諸島域での帰化が認められ、トカラ列島では中之島、諏訪之瀬島に次いで3島目の確認である。放牧地周辺に多い。

⑤ シチトウ (リュウキュウイ) *Cyperus monophyllus* カヤツリグサ科

畳の材料として関東以西から琉球にかけて栽培された多年草で、暖地の湿地では野生化している。和名の七島はトカラ列島を指し、これまで小宝島を除くトカラ列島の各島では自生が確認されていたが、今回島の北東部にある古い井戸そばの耕作地の脇で、自生している集団を見つけ採集した。

(2) 小宝島を分布の南限とする北方系の種 (表2の備考欄中には、「南限、準南限」と記載)

① ハマナデシコ (フジナデシコ) *Dianthus japonicus* ナデシコ科

本州以南の海岸の岩場などに生える多年草でトカラ列島の小宝島が南限とされ、トカラではこの他中之島だけに自生するとされてきたが、近年中之島では見られず、この小宝島が唯一の自生地となっている。島の南西部の海岸近くにある隆起サンゴ礁上の崖地で数個体を確認した。

② サツマノギク *Dendranthema ornatum* キク科

九州南西部の海岸と宇治群島、屋久島、トカラ列島に固有のノギクで、葉の裏面が白く

なる特徴がある。屋久島とトカラ列島のものを変種のトカラノギクとする考えもある。南限はすぐ南方の宝島で、小宝島でも海岸近くの路傍や草地に多く自生する。

(3) 小宝島を分布の北限とする南方系の種 (表2の備考欄中には、「北限」と記載)

① テンノウメ *Osteomeles anthyllidifolia* var. *subrotunda* バラ科

奄美諸島以南の隆起サンゴ礁上に生える常緑の匍匐性低木で、北限は屋久島とされてきたが近年絶滅したといわれ、トカラ列島の子宝島が実質上の北限地となっている。島内では、西部や東部のサンゴ礁上に普通に見られ、特に東部ではオキナワハイネズとともに大きな群落を形成している。

② モンパノキ *Argusia argentea* ムラサキ科

奄美や琉球、台湾などの海岸に分布する常緑の低木で、葉の表面にピロード状の白毛が密生する。従来種子島が北限とされてきたがこの地の個体は失われ、トカラ列島では小宝島と宝島だけに自生しているのでここが北限となる。島の西部の海岸近くで採集した。

③ オオシマノジギク *Dendranthema crassum* キク科

奄美諸島に固有の常緑の多年草で、トカラ列島では小宝島が北限の自生地である。島内では、西部や北東部の海岸近くの路傍や草地に普通に見られ、島民は「ノギク」と称して生花用に摘んで利用している。

④ ハナカモノハシ *Ischaemum aureum* イネ科

隆起サンゴ礁の海岸に生える常緑の多年草で、奄美、琉球、台湾まで分布し、小宝島が北限となっている。島内西部の海岸近くの草地で採集した。

(4) その他の分布上特徴的な種 (表2の備考欄中には、「南方系」と記載)

① オキナワハイネズ *Juniperus taxifolia* var. *lutchuensis* ヒノキ科

南西諸島に分布、北限は伊豆諸島、トカラ列島では口之島、中之島、平島、宝島と本島。

② イソフサギ *Philoxerus wrightii* ヒユ科

トカラ列島以南の岩礁海岸に自生、北限は紀伊半島南岸、トカラ列島では口之島、中之島、宝島と本島。

③ スナズル *Cassytha filiformis* クスノキ科

南西諸島の海岸に分布、北限は佐多岬、トカラ列島では中之島、諏訪之瀬島、宝島と本島。

④ イソマツ *Limonium wrightii* イソマツ科

種子島・屋久島以南の南西諸島の海岸岩場に分布している。北限は伊豆諸島、トカラ列島では臥蛇島、諏訪之瀬島、悪石島、宝島に生育しているが、本島では台風による潮水の冠水で激減している。

⑤ クサトベラ *Scaevola sericea* クサトベラ科

奄美、琉球から熱帯アジアに広く分布、北限は種子島でトカラ列島では悪石島以外の各島に普通。

⑥ アダン *Pandanus odoratissimus* タコノキ科

トカラ列島の口之島が北限で、熱帯アジアの海岸に広く分布、小宝島では東部に大きな群生地が見られる。

おわりに

暖温帯と亜熱帯の移行帯といわれるトカラ列島の南部にある小宝島で植物資料の採集を行い、その結果を報告した。半日という短い期間ではあったが、73種の高等植物を採集し収蔵資料として標本化した。さらに前回(2000年)に採集した種を合わせた86種の高等植物について、その概要と注目すべき特徴的な種について述べた。これらの中には、5種類の初記録種の他、小宝島を南限とする種や北限とする種など分布上注目すべき種も含まれ、新たな知見を得ることができた。

小宝島は隆起サンゴ礁でできた小さな島で自生する植物の種類も少ないが、トカラ列島の南に位置し、奄美大島に近いこともあって亜熱帯性の要素が強く、この島を北限とする植物も多い。特に海岸岩礁地のオキナワハイネズやテンノウメの群落は規模が大きく、保護される価値の高い一帯であると思われる。一方、中央部の竹の山は全山リュウキュウチクに覆われ、広葉樹林帯はごくわずかしか見られない。リュウキュウチクの増加は今後も続くと予想され、これに伴って既存の植物が姿を消していくことも懸念される。また、新たな帰化植物の定着も進んでおり、今後の島内の植物相の変化の要因となっていくものと思われる。

#### 引用・参考文献、書籍

- 鹿児島県環境生活部環境保護課，2003，鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 植物編一  
鹿児島県レッドデータブッカー．財団法人鹿児島県環境技術協会．鹿児島
- 佐竹義輔他・編，1981，日本の野生植物草本Ⅰ～Ⅲ．平凡社，東京．
- 佐竹義輔他・編，1989，日本の野生植物木本Ⅰ～Ⅱ．平凡社，東京．
- 志内利明，1995MS，トカラ列島の植物相．鹿児島大学理学研究科系統分類学講座．
- 清水建美・編，2003，日本の帰化植物．平凡社，東京．
- 寺田仁志，1995，小宝島・小島の植生．鹿児島県立博物館研究報告，14，1-32．鹿児島県立  
博物館．
- 初島住彦，1974，トカラ列島の植物相．鹿児島県の植物，3，1-42．
- 初島住彦，1991，北琉球の植物，45．朝日印刷書籍出版，鹿児島．
- 平田浩，1995，十島村史，56-146．十島村．鹿児島．